

知覚されたリスクと倫理

知覚されたリスクは、感染者に対応する人々に有害な心理的影響を与えることがわかっています。それは、「感染防止策を徹底していても、完全に感染を防げるのだろうか」、「感染しても気づかないのではないか」、そのため「他の人に感染を広げてしまうのではないか」という自己や他者の安全を脅かすのではないかという不安が根底にあるためと考えられます。

感染していない人も同様で、人によっては、感染リスクを過剰にとらえ、感染確定者や濃厚接触者に偏見をもちレッテルを貼ろうとしたり、遠ざけたりする、一見理不尽な反応をみせることもあるかもしれません。ただ、これは、自分を守ろうとする人間の正常な反応でもあるのです。

未知の感染症に対応することは、ほとんど誰にとっても経験がない危機的状況ともいえます。COVID-19 感染者、濃厚接触者とそのご家族、またすべての学生、教職員、一人ひとりの尊厳を守るために、**理性とお互いを思いやる気持ち**をもって、その時の状況に応じたよりよい方法を考え、適切に行動していくことが重要になります。

このリーフレットは、2002 年発生の SARS に対応した医療従事者等を対象にした調査結果を参考に作成しています。

- Maunder, et al.(2006).Long-term Psychological and Occupational Effects of Providing Hospital Healthcare during SARS Outbreak, *Emerging Infectious Diseases*, 12(2), 1924-1932.
- Tam, et al.(2004) Severe acute respiratory syndrome (SARS) in Hong Kong in 2003: stress and psychological impact among frontline healthcare workers. *Psychol Med*, 34,1197-1204.

心理社会的支援については、以下のガイドラインを参考にしています。

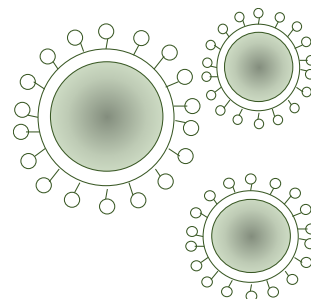
- PS center(2020).Mental Health and Psychosocial Support for Staff, Volunteers and Communities in an Outbreak of Novel Coronavirus.
- WHO(2020).The COVID-19 Risk Communication Package For Healthcare Facilities.

Edited and designed by Mikiko Hirano Certified Clinical Psychologist, PhD., RN.

COVID-19 感染者対応における心理社会的支援(学校編)

-入院や自宅待機となった学生を学校(組織)とクラス(チーム)で支えるために

COVID.19 とは何か?



COVID-19(Coronavirus disease discovered in 2019)は、中国武漢で2019年12月に確認された新型コロナウイルスです。主症状は、発熱、倦怠感、咳などで、関節痛や鼻汁、咽頭痛や下痢、臭気異常、味覚異常を伴うこともあることが報告されています。感染してもほとんどの人(80%程度)の症状は軽く、特別な治療を必要としませんが、感染に気づかず無自覚のまま感染を広げる恐れもあります。一方で、高血圧、心臓病、糖尿病のある方は、重篤な状態になることもあるため、咳や呼吸困難がある場合は、生命の危険が伴います。

感染経路と予防策

感染した人の咳など、口や鼻からの飛沫によって、人に感染します。また、その飛沫が付着した物や表面を触り、そのまま目や口、鼻などに触ることによっても感染するとされます。

感染予防策としては、

- 感染している人との2m以内の接近を避ける
- 石鹸を使った手洗い、すり込み式アルコール製剤の使用
- 目、口、鼻を触ることを避ける
- 自分、そして周囲の人が咳エチケットを守っているか確認する
- 体調が悪いときは家で休む。熱や呼吸困難がある場合は、医療機関に電話し相談する

(Retrieved from <https://www.who.int/news-room/q-a-detail/q-a-coronaviruses> (検索月日:2020.3.9) ※COVID-19 の感染経路と予防策については、常に最新の情報を入手し、それに沿って対応しましょう

① 流行期の準備

● 学校 組織

国内外の感染拡大状況、最新の知見を入手しながら、有効な感染予防策と、感染発生時の対応策を策定します。学生の皆様に、感染予防策等について徹底してもらえよう、周知します。

● クラス チーム

クラスでできる感染予防策を徹底しましょう。自分を含め、誰もが感染する可能性があることを認識し、もし感染者や濃厚接触者が発生したら、どのように支援しあえるか、話し合っておくとよいでしょう。

● 一人ひとりの学生 個人

個人でできる感染予防策を徹底しましょう。もし感染し隔離されたら、どう感じるか、そして何が必要か、どのように助けられるか、今のうちに、近くに住む友人や同級生と話し合っておくのもよいでしょう。

② 感染者の発生/感染拡大防止措置

● 学校 組織

感染者の発生を受けて、発症時期と行動歴から、濃厚接触者(学生、教職員、患者様等)を確認します。関係機関や学生、保護者の皆様に必要な連絡をおこない、さらなる感染拡大の防止に努めます。

● クラス チーム

治療のための入院や自宅待機となり、しばらく学校を休まざるを得ない同級生をどのように支えられるか、自分だったら、相手だったら、何をしてほしいかを考え、感染を予防しつつ支援する方法を考えましょう。

● 一人ひとりの学生 個人

治療のための入院や自宅待機となる学生は、感染拡大防止のため、必要な措置に沿って行動しましょう。困りごとや心配ごとがあったら、教員や友人、同級生に相談しましょう。

すべての学生は、個人でできる感染防止策を徹底しましょう。感染に関して、何か心配事があったら、教員に相談しましょう。

④ 復帰後の支援

● 学校 組織

復帰後、学校生活にスムーズに移行できるよう支援します。出席停止期間の単位認定の方法などについて、一緒に考えていきます。必要時、心理専門職による支援(カウンセリング等を含む)を受けられるよう配慮します。

● クラス チーム

復帰した学生のこれまでの頑張りを労いましょう。何か気がかりなことがあれば、教員に相談しましょう。復帰した学生が辛そうな様子や話したい様子があったら、さりげなく話を聴きましょう。

● 一人ひとりの学生 個人

復帰した学生は、支援してくれた人たちとクラスに感謝の気持ちを伝えましょう。また、その都度、困っていることを、教職員に相談しましょう。感じたことや今の気持ちを近い同級生に聴いてもらうのもよいでしょう。

③ 出席停止中の支援

● 学校 組織

入院や自宅待機となっている学生と継続的に連絡をとり、相談にのります。相談窓口を明確にし、保護者の方の心配ごとにも対応します。復帰後の単位取得のための補習の方法など、スムーズな復帰に向けた準備をします。

● クラス チーム

メールや電話、LINE、What's upなどを介して、体調を聞いたり、何げない会話をしたりして、いつも通りの関係を保ちましょう。必要な食糧や物資をドアの外に置くなども、よい助けになるでしょう。

● 一人ひとりの学生 個人

入院や自宅待機となっている学生は、友人や同級生、保護者など、あなたを安心させてくれる人と、連絡を取り合いましょう。毎日決まった時間に起きて、夜しっかり眠る生活習慣を保ちましょう。制約された中でも、何か楽しみをみつけましょう。体調に問題なければ、時間を決めて、学校の課題に取り組んでみるのもよいでしょう。



図1 COVID-19 感染者対応プロセスと組織-チーム-個人における心理社会的支援